





ふじみやぐら  
**14 富士見櫓**

「櫓」は、城の隅など重要箇所に造られる防衛施設の役割をもった建物です。かつて江戸城には多くの櫓がありました。現存する櫓は、富士見櫓、伏見櫓、巽櫓の3つとなりました。富士見櫓は、明暦の大火(1657年)で焼失しましたが、その後間もなく再建され、天守の代用としても使われていました。将軍が富士山や両国の花火、品川の海を眺めたといわれています。



たつみやぐら  
**16 巽櫓**

江戸城で現存する唯一の隅櫓(すみやぐら)です。隅櫓とは、城の隅角に造られた監視と防衛を目的とするものです。榎田巽二重櫓とも、単に巽櫓とも呼ばれています。



ききょうもん  
**15 桔梗門**

江戸時代に造られたものです。現在は、一般参観の人々の入退出など通用門として使われています。この地に最初に城を築いた太田道灌は、桔梗を家紋にしていたとも言われ、道灌と皇居とのゆかりを感じさせる門名です。

そうめいかん  
**17 窓明館・売店**

皇居一般参観参加者へ説明を行う場所です。売店があり、お土産物の販売をしています。飲料の自動販売機もあります。お食事は販売しておりません。ゴミ箱は設置しておりませんので、各自お持ち帰りください。

**18 売店**

お土産物等の販売をしています。飲料の自動販売機もあります。お食事は販売しておりません。ゴミ箱は設置しておりませんので、各自お持ち帰りください。

いしむろ  
**19 石室**

江戸城本丸御殿の大奥の脇に当たります。石室の用途は諸説ありますが、火事など非常の際に、大奥用の調度などを避難させた場所と考えられています。



ふじみたまん  
**21 富士見多聞**

「多聞」は、長屋通りの防衛施設です。江戸城には多くの多聞がありました。現存するのは、この富士見多聞と、伏見櫓の左右にある多聞だけになりました。(中に入って見るができます)



**21 本丸バラ園**

上皇陛下のお考えから平成8年(1996)に整備されました。大半のバラは昭和天皇が献上をお受けになってお育てになっていたものを、吹上御苑から移植したものです。見頃は4～6月です。



まつ おおろうかあと  
**22 松の大廊下跡**

江戸城本丸には広大な御殿があり、そのうちの一つに「松の大廊下」がありました。横戸に松と千鳥が描かれた長い畳敷きの廊下で、赤穂浪士討ち入りにつながったことで知られる、浅野内匠頭長矩(あさのたくみのかみながのり)の吉良上野介義央(きらこうすけのすけよしひさ)への刃傷事件(元禄14年(1701))があった場所です。事件を下敷きにして、「仮名手本忠臣蔵」をはじめ多くの舞台芸能、文学作品、映画、テレビドラマが生まれています。



**23 果樹古品種園**

かつて食用として栽培されていた古い品種の果樹が植えられています。この果樹園は、江戸城の跡に江戸時代の果樹の品種を植え、入園者が楽しめるようにとの上皇陛下のお考えからつくられたものです。

**24 本丸大芝生**

江戸時代の江戸城の本丸だったところで、面積は、約13万平方メートルあります。将軍の政務と居住の場であった、3万3千平方メートルに及ぶ広大な御殿が建っていました。



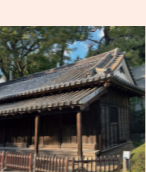
**25 本丸休憩所**

お土産物を販売しています。飲料の自動販売機があります。お食事は販売しておりません。別棟で江戸城天守復元模型を公開しています。



**26 展望台**

江戸時代の江戸城には、台所前三重櫓という櫓がありました。この付近に、本丸御殿の台所があったことからそう呼ばれたものです。現在は二の丸や大手町方面のビル群を眺めるのによい展望台となっています。



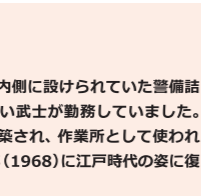
どうしんばんしょ  
**27 同心番所**

「番所」とは警備詰所のことで、江戸城にあった番所のうち、百人番所、大番所、同心番所の3つが残っています。ここには主として「同心」と呼ばれる武士が詰め、豊城者の監視に当たっていました。屋根瓦には、皇室の菊の御紋のあるものや徳川家の葵の紋があるものが見られます。



おおばんしょ  
**28 大番所**

大番所は、大手中へ門の内側に設けられていた警備詰所です。ここには位の高い武士が勤務していました。この番所は、明治期に改築され、作業所として使われていましたが、昭和43年(1968)に江戸時代の姿に復元されました。



ひやくにんばんしょ  
**29 百人番所**

江戸城本丸への道を厳重に守る大手中へ門に向き合って設けられた警備詰所です。甲賀組、伊賀組、根来組、二十五騎組という4組の鉄砲百人組が昼夜交替で勤務していました。各組は、20人の与力と、100人の同心で構成されていました。



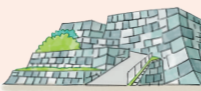
さいねいかん  
**30 皇宮警察 洛寧館(武道場)**

明治天皇の命でできた武道場で、改築移転を経て、現在の建物は1933年に造られました。武道に励む声が聞こえます。



てんしゅだい  
**32 天守台**

徳川家康の入城以来、江戸城では、慶長度天守(1607年)、元和度天守(1623年)、寛永度天守(1638年)と3度、天守が建てられました。最も規模が大きかった寛永度天守は、地上からの高さが約58mあったといわれています。この天守台は、寛永度天守が明暦の大火(1657年)により焼失した後、天守再建を目指して万治元年(1659)に築かれたものですが、幕府内で、天守は不要との結論が下され、この天守台には天守が建てられなくなりました。



おおおくあと  
**36 大奥跡**

徳川将軍の時代、江戸城の本丸御殿の最も奥にあった大奥の跡地です。

さいねいかん  
**37 書陵部庁舎**

宮内庁書陵部は皇室に伝えられてきた、歴史的に貴重な文書の保管、皇室の歴史の編纂、歴代の天皇や皇族のお墓の管理や調査などを担当しています。



がくぶちょうしゃ とうかがくどう  
**34 楽部庁舎、桃華楽堂**

宮内庁式部職の楽部は、雅楽の保存、演奏、演舞、宮殿で演奏される洋楽を担当しています。楽部楽師が演奏する雅楽は、国の重要無形文化財に指定されています。毎年秋には、楽部による雅楽の一般公開が行われています。桃華楽堂は、香淳皇后のご遷居を記念して建てられ、香淳皇后のお印の「桃」にちなんで命名された音楽堂で、昭和41年(1966)に完成しました。屋根はテッセンの花弁を象り、八つある壁面は、各面とも大きく羽ばたく鳥を中央に、それぞれ日月星、松竹梅、楽の音などをイメージした図柄が陶片で描かれています。



おおおくあと  
**36 大奥跡**

徳川将軍の時代、江戸城の本丸御殿の最も奥にあった大奥の跡地です。

ばいりんざか  
**36 梅林坂**

この地に最初に城を築いた太田道灌が、このあたりに天神社をまつり、数百株の梅を植えたことから「梅林坂」の名が付いたといわれています。現在は約70本の紅白の梅が植えられており、12月末から2月まで花が楽しめます。



# 皇居東御苑 拡大図

皇居東御苑とは

皇居東御苑は、天皇后両陛下のお住まいである皇居の中のお庭で、かつての江戸城の中心部分を、昭和36年(1961)から昭和43年(1968)にかけて庭園として整備し、同年10月から一般公開しています。



皇居東御苑 自由散策エリア

Wi-fi 郵便ポスト 水飲み場

凡例

のマークのあるところは、男女お手洗いの他下記の施設があります

のマークのある方が使える設備

オストメイト用設備

乳幼児用設備

おむつ交換台

..... 仮設トイレのみ、おむつ交換台はありません。.....

カルガモ

白鳥瀬、天神濠、周辺の各濠で見ることができます。

平川門

カワセミ

二の丸池、白鳥瀬、大手濠、桔梗濠などの水辺で見ることができます。

皇居東御苑内の看板(日本語・英語)や、宮内庁参観音声ガイドアプリ(日本語・英語)をご参照ください。

しおみざか  
**37 汐見坂**

徳川家康による江戸城築城の頃は、この場所の近くにまで日比谷入江が入り込み、この坂から海を眺めることができたことから「汐見坂」の名が付いたといわれています。この坂は、本丸と二の丸をつないでいたもので、坂上には、汐見坂門が設けられていました。



**40 二の丸庭園**

江戸時代、二の丸には小堀遠州が造り、三代将軍徳川家光の命で改修されたと伝えられる庭園がありました。長い年月の間にたびたび火災で焼失し、明治以降は荒廃していました。現在の回遊式の庭園は、昭和39年(1964)に、九代将軍徳川家重の時代に作成された庭園を基にして造られたものです。

**41 二の丸池のヒレナガニシキゴイ**

上皇陛下のご発案により、インドネシアのヒレナガゴイと日本のニシキゴイを交配して生まれました。



きたはねばしもん  
**42 北桔橋門**

江戸時代は、本丸の裏手を守る重要な門で、この門に接続する櫓は、いざという時には、跳ね上げられて、敵が渡って来られないようにする仕掛けになっていました。

ひらかわもん  
**43 平川門**

大手門が正門であるのに対して、この門は、御殿に勤めていた奥女中などの通用門として使用されていました。大手門と同様、厳重な防御の構造になっています。小さな脇門は、平川濠の中に伸びた、「帯曲輪(おびくるわ)」と呼ばれる細長い渡り堤につながっています。

おおもん  
**44 大手門**

大手門は江戸城の正門で、諸大名がこの門から登城しました。大小2つの門に囲まれた拵形は、侵入する敵を阻止・攻撃しやすい構造になっています。昭和42年(1967)に復元されました。

しゅめはんきゅうしゃ  
**45 主馬班厩舎**

主馬班では、馬車をひく馬や乗馬用の馬を飼育・調教しています。信任状捧呈式馬車列の運行、古式馬術(母衣引及び打球)の保存を行っています。(※立ち入ることはできません)



江戸から残るもの 現代のもの 表しています

(参考)皇居東御苑開園前の風景 <https://www.kunaicho.go.jp/event/higashigyoen/pdf/zuroku.pdf>